

雲仙観光局

よくあるご質問(Q&A)

令和4年1月25日、雲仙市全体の観光推進の旗振り役となる新団体「雲仙観光局」を設立しました。

雲仙観光局は既存の観光協会の一元化という側面だけでなく、雲仙温泉・小浜温泉以外の地域も含めた、雲仙市全体の観光推進の旗振り役であるとともに、観光産業と農漁業や地場産業などと分野を超えて多彩な業種の皆さんが連携を図り、観光と1次産業の相乗効果で、雲仙市を持続可能な地域とするため、理事および監事の計20人が設立宣言を行い、邁進していく決意を新たにしました。

ここでは、雲仙観光局という組織の特徴や目玉事業などについてクローズアップしてQ&A形式でご紹介します。

①組織について

Q. 法人化は行うのか？いつか？

A. 一般社団法人での法人化を予定している。令和4年1月25日の設立総会以降、登記手続きに入り、令和4年2月中旬には一般社団法人となる予定です。

Q. 4月の事業開始に向け、一般社員（会員）は何人ぐらいを目指す？

A. これまでの雲仙温泉、小浜温泉の両観光協会の会員や、その他雲仙市内外を含め広く呼びかけ、令和4年度には200者程度を目指しています。

観光に限らず農業者や漁業者、飲食業や物販など幅広く募集します。

Q. 小浜温泉観光協会、雲仙温泉観光協会の合併、一本化か？

A. 2つの観光団体の合併や一本化ではなく、雲仙市全体の観光推進の旗振り役であるとともに、観光産業と農漁業や地場産業などと分野を超えて多彩な業種の皆さんが連携を図り、観光と1次産業の相乗効果で、雲仙市を持続可能な地域とするための組織であり、そこへ小浜温泉、雲仙温泉の観光関係者も合流していくということです。

小浜温泉観光協会は令和3年3月末をもって解散しています。また、雲仙温泉観光協会も、この雲仙観光局に合流していく方針で、令和4年3月の解散に向けて調整中です。これまで観光協会が果たしてきた役割は、内容を整理しつつ必要なものは、引き継いでいくことにしています。また、両観光協会以外の組織についても、必要性和効果を勘案しながら、必要に応じて合流も検討します。

Q. 事務局体制はどれぐらいの規模になる（職員は何人ぐらい）？

A. 令和4年4月から、20人程度を予定しています。雲仙観光局の4つの機能（事業者の経営拡大に向けたコーディネート機能、観光まちづくりのマーケティング機能、地域ブランド・価値創造機能、内部体制強化機能）に準じた部を設け、部門ごとに適正な人材を配置します。

観光分野の業務で経験豊富な職員をはじめ、他機関からの派遣や、マーケティング

やプロモーション担当などは「複業（外部人材の協力）」枠も設け、時代に即した、多彩な人材を活用していきます。

Q. どういった組織を目指す？特徴は？

A. 観光に限らず農業や漁業、飲食業など多彩な業種の皆さんに参画いただき、分野を越えて連携するのが特徴であり、特に、雲仙市の2大基幹産業である、観光産業と1次産業の連携による相乗効果で、旅先としても、生産地としても、選ばれ続ける、雲仙ブランドを確立し、地域全体の価値を向上を目指します。

Q. 今までの観光協会等と何が違うのか？

A. これまで農業は農業、漁業は漁業、旅館などを含む観光業は観光業と、各分野がそれぞれ単独で活動することが多い状況でした。観光局はそれらをつなぎ、各分野のニーズや課題をもとに、Win-Winになれる取り組みを見出すなど、全体的な戦略を練って実行する組織を目指します。

観光と一口に言っても情報過多の今の時代、何がフックになるか分かりません。だからこそ、マーケティングが重要だと考えています。幸い、雲仙には食も人も自然も温泉も揃っています。それら全てをウリにして、攻めに転じる組織を目指す。そのため、全体のマーケティングを踏まえた、雲仙ならではのブランディングを進めていける、プロ集団を目指します。

②事業（計画）や予算について

Q. 事業計画について教えてほしい。

A. 令和4年度の総会で決めることとなりますが、4つの機能（事業者の経営拡大に向けたコーディネート機能、観光まちづくりのマーケティング機能、地域ブランド・価値創造機能、内部体制強化機能）に即した事業を展開します。

Q. 目玉事業は？

A. 4つの機能に即し一つずつ目玉事業を挙げます。

①「事業者の経営拡大に向けたコーディネート機能」

「よろず相談窓口」が目玉となります。会員事業者の悩みを個別に受け、アドバイスを行う相談窓口を設置し、ブランド力向上や販路拡大などにつなげ、地域事業者の価値向上に貢献します。

②「観光まちづくりマーケティング機能」

「月1回のマーケティングレポート作成・配信」を行います。携帯電話アプリの位置情報・検索情報のビックデータを活用し、毎月の訪問客数を雲仙市全体はもちろん、町やスポットに分けて、来訪者の都道府県別・年代別で分析する予定です。ネットユーザーの雲仙の「検索数（＝関心度）」の分析も予定しており、これまでにない新しいデータの提供に取り組みます。雲仙観光局では、このデータを単に発表するだけでなく、プロモーション戦略やコンテンツ造成に繋がります。

③「地域ブランド・価値創造機能」

「コンテンツ開発・磨き上げ」がメイン事業です、令和4年度から3年間は、徹底的に「食」と「人」に焦点を当て、コンテンツや魅力を磨き上げます。「食と人と大地の祝祭」と題した企画を検討中です。雲仙観光局が目指す柱の一つとして、1次産業と観光の連携および雲仙ブランドの確立や域内の交通アクセスの改善などによる、リピーター増加や周遊滞在の促進、消費額の向上、地元からの日帰り客も楽しめる雲仙市になることを掲げています。

④「内部体制強化機能」

スタッフの研鑽やノウハウ蓄積による業務効率化などに取り組み、顧客管理システムの導入、自主財源比率の向上やビジネス活性化を図るための自主事業の展開です。

Q. 将来的に自走できる組織を目指すにはどうすべきか？

A. 可能な限り、補助金に頼らず、自主事業で収益を上げ、自主財源比率を上げていくことが望ましい。そのためには、趣旨の合致した、各種受託事業の実施や、キャンプ場などの運営の他、ECサイトや体験コンテンツの販売・予約窓口の代行などによるマージン収入など、地域でニーズはあるが、不足しているビジネスを洗い出して取り組むなど、地域とWin-Winになるビジネスを探しながら、積極的にチャレンジします。

③その他

Q. 市役所と観光局の役割分担とは？

A. 雲仙市は目指すべき全体方針の策定と施設（ハード）の維持管理。雲仙観光局はマーケティング活動全般とそれらを踏まえた戦略・戦術・各種事業の検討・実施が役割です。

市は観光ビジョンなど柱となる観光政策を立案することや基盤整備・ハード整備・維持管理等に注力します。観光局はそうしたビジョンに基づき、専門性を発揮しつつ、マーケティングを行いながら、戦略を練り、それに基づき、機動的に各種観光事業を展開していく、プロ集団としての戦略・実行部隊を目指します。

一方で市では、局から上がってくる、観光に限らない様々な分野を意識したブランド調査やマーケティング結果などを踏まえ、効果的な政策を部局横断的に考えることができ、観光局では民間的な発想で、タイムリーかつスピーディーな事業を展開するのがメリットとなります。これまで官と民の間でグレー（中途半端）であった役割分担が明確になります。また、マーケティングは継続性も重要であり、人事異動が基本となる行政ではできない継続的な取組み・人材育成を観光局で行い、プロ集団としての人材育成と事業を展開します。

Q. 昨夏の豪雨災害で被害を受けた雲仙温泉の観光浮揚もミッションの一つ？

A. もちろん、雲仙温泉の観光浮揚も、大きなミッションのひとつとなります。

令和3年8月の豪雨災害で犠牲となった森優子さんは、雲仙温泉観光協会の職員であり、今回の雲仙観光局の一翼を担うはずだった人材です。プロモーションのあり方

等についても議論を交わし、今回の事業体制を検討してきたところも多分にあるため、今でも悔やまれます。

豪雨被害では多くのご支援、ご尽力をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。「越えて、より先へ」の合言葉のもと、100ではなく200、300の発展的な復興を目指して、引き続き雲仙観光局としても、観光復興にまい進します。

公式サイト等

「雲仙観光局」公式サイト <https://unzen-dmo.com/>



「全員集合！雲仙ポータル」 <https://www.unzen-portal.jp/>

